

市内在住外国籍市民への 支援活動をめざして

目 次

1. はじめに
2. 市内在住外国籍市民の現状
 - (1) 外国人登録者数と行政地区別分布
 - (2) 出身国別の外国人登録人口
 - (3) 先輩方が市へ提言した事項の具現化の現状
 - (4) 外国籍市民の声
(きらめき出前講座)
3. 先進的な国際交流センター視察
 - (1) NPO法人「ふじみの国際交流センター」の状況
4. 支援活動への取り組み
 - (1) 交流活動「ホテル見物と日本文化に触れる会」
 - (2) 支援活動内容のリストアップ
 - (3) 支援内容の周知活動
5. 国際交流協会事業への参加
(自主活動)
6. おわりに



○山本 勲 飯島 良明 田村 泰雄 山下 克夫 ○滝沢 東三 ◎高岡 光一
松本 洋子 五十嵐 利枝 田村 あや子 菊地 洋子

きらめき市民大学 9期 国際・文化学部 C班

1. はじめに

(1) テーマの設定

①自分達の希望から

私達はまずテーマの設定にあたり、どのような活動を行いたいかを出し合った。

- ・市内在住外国籍市民の実態調査と外国籍市民との交流をしてみたい。
- ・諸先輩方が東松山市に対して行った提言のその後を確認したい。
- ・外国籍市民に対する行政サービス等の現状を調べてみたい。
- ・困っている外国籍市民に生活相談的なことをしてみたい。
- ・国際交流協会の会員になり、交流協会の事業に参加したい。
- ・継続できるような活動をしてみたい。

以上のような活動内容を包括し、かつ諸先輩方が行った研究テーマとダブらないテーマを設定したいと考え話し合った。また、市への提言だけではなく、私達自身がアクションを起こし、何らかの活動をしていきたいという意見が強くなっていった。その話し合いの中から、ささやかでもいいから外国籍市民の方々に何らかのお手伝いをしたり、支援活動をしたりしていこうということに話が煮詰まり「市内在住外国籍市民への支援活動をめざして」というテーマを設定した。

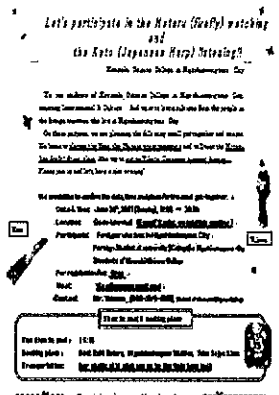
②埼玉県の実策と東松山市の現状から

埼玉県が進める「多文化共生推進プラン」の中の「コミュニケーション支援」「多文化共生の地域づくり」「生活支援」を受け、私達ができそうな支援活動を進めていこうということにした。また、東松山市には約1,600名の外国籍市民が生活しており、市民の約55人に1人は外国籍市民であるという現状もあった。これらの方々が言語、文化、生活習慣等の違いから日常生活で困っていることが予想され、私たちのささやかな力が役に立つのではないかと考えた。更に、きらめき市民大学の目標の一つである「学習成果を市民生活の向上に生かす」を実践するためにも最適なテーマだと考えた。

(2) 主な活動の経緯

私達は、まず市内在住外国籍市民の実態調査と諸先輩方が東松山市に対して行った提言の実施状況調査から始めた。それらの現状を踏まえ、私達は自分達で出来るささやかな支援活動を模索し実践していった。

月	活 動 内 容
3月	① テーマの検討 : どんな活動をしたいかを出し合う。 ② 国際交流協会に全員加入 ③ 文化まなび課へ質問書を提出 ・先輩方が市に対して行った提言が現在どの程度実施されているか等を質問書にして提出する。

4月 ～ 5月	<p>① 交流事業「ホテル見物と日本文化に触れる会」実施決定 ・企画案を検討。チラシを作成し日本語教室受講者、大東文化大学留学生等に配布する。</p> <p>② 国際交流協会総会及び各部会へ参加</p>	<p>(案内のチラシ)</p> 
6月	<p>① 市の国際交流施策（質問書）について回答を受ける ・先輩方が行った提言の進捗状況の回答を得ると共に、市内在住外国籍市民の実態を把握した。</p> <p>② 市内在住外国籍市民の話を聞く（きらめき出前講座） ・4人の外国籍市民から、「日本に住んで困ったこと」の話を聞く。</p> <p>③ 交流事業「ホテル見物と日本文化に触れる会」実施 ・外国籍市民23名参加。</p> <p>④ 国際交流協会事業「食文化交流会・ブラジル料理」に参加</p>	
7月	<p>① NPO法人「ふじみの国際交流センター」訪問 ・先進的な事業内容の説明を受け、私達の活動のヒントを探る。</p> <p>② 外国籍市民の方々に私達ができる支援活動の内容をリストアップ ・メンバー一人一人が特技や趣味で支援できる内容を出し合う。</p> <p>③ 国際交流協会事業「イングリッシュミーティング」に参加</p>	
8月	<p>① 文化まなび課に私達の支援活動内容の周知方法を相談 ・国際交流協会でも周知活動をするが、他の方法も検討した方がよいのではないかとアドバイスを受ける。</p>	
9月	<p>① 国際交流協会ニュース9月号に私達の支援活動内容が掲載される</p> <p>② 国際交流協会外国人相談支援スタッフ会議に参加 ・部会の中で私達の支援活動ができないか相談。</p> <p>③ きらめき市民大学ボランティアクラブ役員会に参加 ・ボランティアクラブ内で私達の支援活動ができないか相談。</p> <p>④ 国際交流協会事業「食文化交流会・ハワイ料理」に参加</p>	
10月	<p>① 大東文化大学国際交流センター訪問 ・留学生に私達の支援活動ができないか相談。</p> <p>② 国際交流協会事業「語学講座(中国語)」に参加</p> <p>③ 社会福祉協議会ボランティア団体に登録</p> <p>④ 国際交流協会事業「ワンポイント英会話」に参加</p>	<p>「英会話」覚えて 交流を広めよう フリーマーケット 11月4日(日)東松山市 2人参加を要する。申込 先着順。申込先:国際交 流協会(TEL:049-233-1111)</p> <p>「ワンポイント英会話」 11月11日(日)東松山市 2人参加を要する。申込 先着順。申込先:国際交 流協会(TEL:049-233-1111)</p> <p>「ワンポイント英会話」 11月18日(日)東松山市 2人参加を要する。申込 先着順。申込先:国際交 流協会(TEL:049-233-1111)</p> <p>「ワンポイント英会話」 11月25日(日)東松山市 2人参加を要する。申込 先着順。申込先:国際交 流協会(TEL:049-233-1111)</p>
11月	<p>① 国際交流協会事業「スリーデーマーチボランティア」に参加 (朝日新聞)</p> <p>② ツイッター、チラシでの発信 ・私達の支援活動内容をツイッターで発信すると共に、チラシを作成し日本語教室受講生等に配布した。</p> <p>③ 国際交流協会事業「バスツアー」に参加</p>	

2. 市内在住外国籍市民の現状

(1) 外国人登録者数と行政地区別分布

東松山市在住の外国籍市民の人数及び市の人口について東松山市より以下の情報を得た。ここ5年間の推移をみると、東松山市の全人口に対する外国籍市民の占める割合は1.8%から2.0%で約55人に1人が外国籍市民であることが読み取れる。

東松山市の人口と外国籍市民の推移

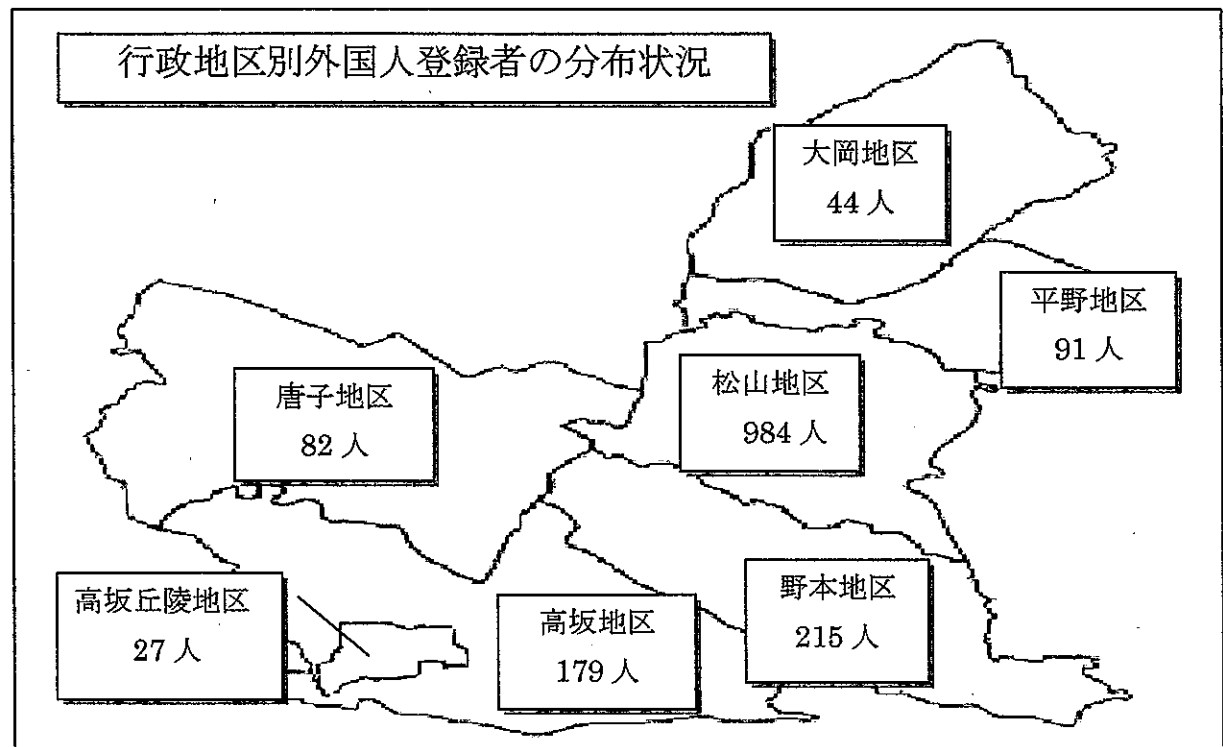
(平成23年5月1日現在)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
日本人	88,453	88,179	87,933	87,724	88,073
外国人登録者	1,661	1,712	1,798	1,692	1,622
全人口	90,114	89,891	89,731	89,416	89,695
全人口に対する 外国籍市民比率	1.8%	1.9%	2.0%	1.9%	1.8%

市内の各行政地区別の外国人登録者の分布は以下のようである。

(平成23年5月1日現在)

	松山 地区	平野 地区	大岡 地区	唐子 地区	高坂 地区	高坂丘 陵地区	野本 地区
外国人登録数	984	91	44	82	179	27	215
地区人口	35,564	9,937	4,024	9,457	10,657	5,599	14,457



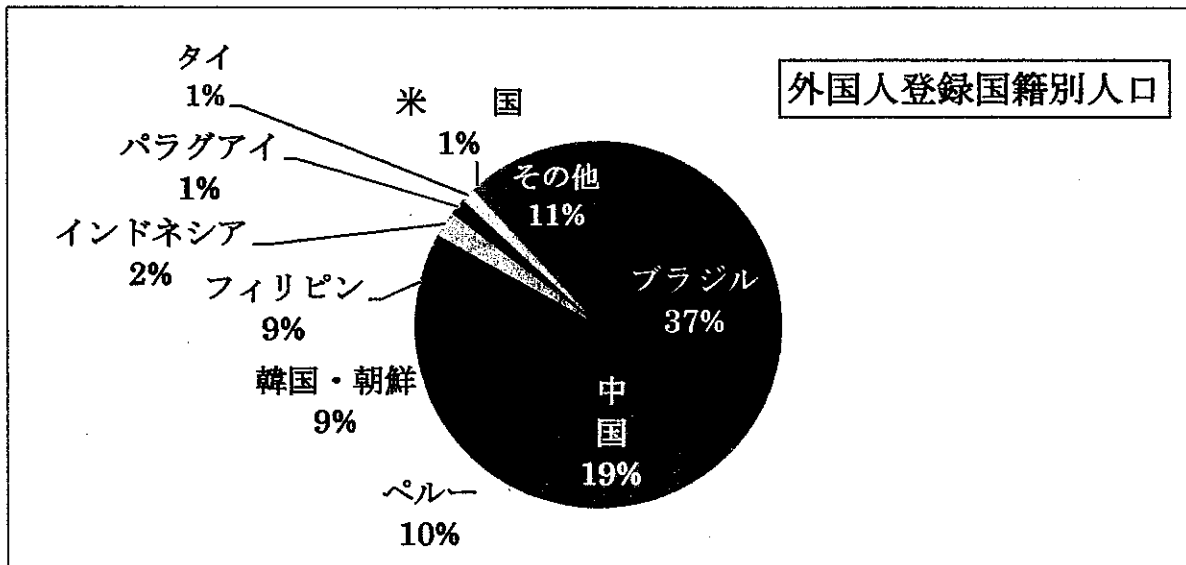
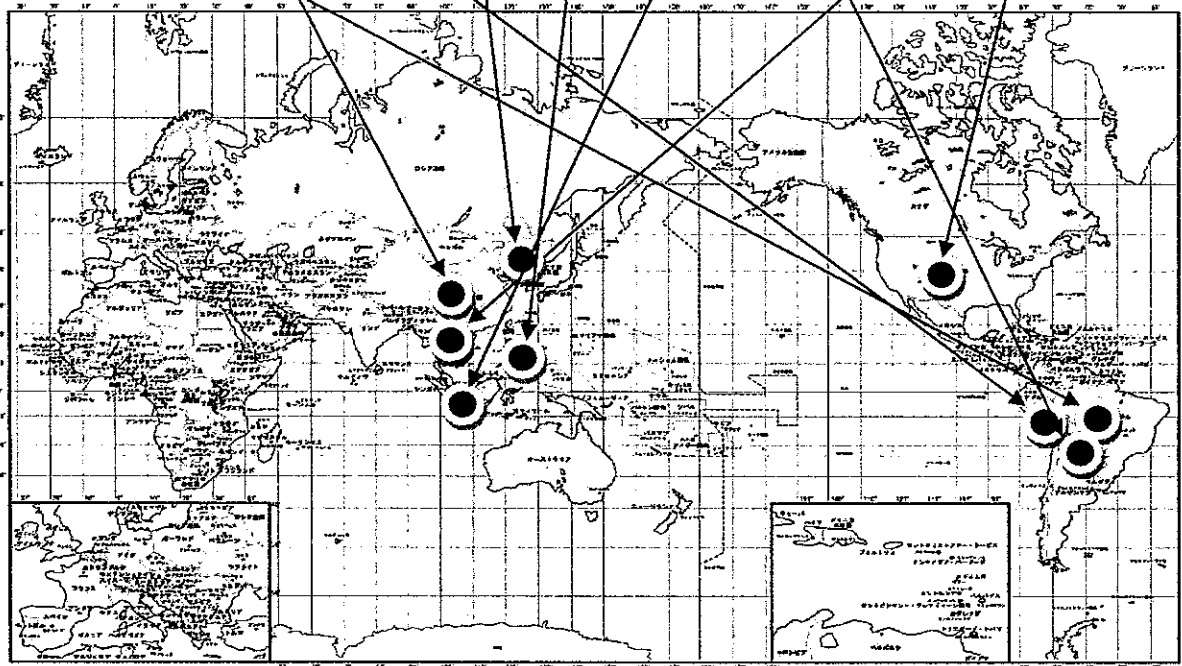
(2) 出身国別の外国人登録人口

次に、外国人登録国籍別人口については以下のような状況にある。下の世界地図に出身国をプロットしてみた。

外国人登録国籍別人口

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

平成	ブラジル	中国	ペルー	韓国・朝鮮	フィリピン	インドネシア	パラグアイ	タイ	米国	その他
23年	597	306	165	139	141	37	24	20	16	177



(3) 先輩方が市へ提言した事項の具現化の現状

国際・文化学部の先輩方が、国際交流について研究を深めた中から市へ提言した事項の主なものと、それが現在どの程度具現化しているかについての回答を市の「文化まなび課」より以下のように得る事が出来た。

提言1 困っている外国籍住民が相談できる場をつくり、市民がボランティアでそれに参画していく。(よろず相談所の設置など)

回答> 市では東松山市国際交流協会(以下、協会)と協働で、外国籍市民からの相談を受け付けている。協会では9名のスタッフが相談支援を担当している。

提言2 市の施設、主要な建物や案内図などに、ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語などを併記し外国籍市民にわかるようにする。

回答> 英語による案内表示がある施設はあるが、ポルトガル語、スペイン語等の表記はない。

提言3 公営住宅の案内書、保育園などの入学案内や病院の診療内容の紹介などに、ポルトガル語など主要な言語を併記することも望ましい。

回答> 公営住宅の案内書、市の保育園の入園案内書、市民病院のパンフレットや案内書などに外国語の表記はない。

提言4 きめ細かい行政サービスの提供、具体的には生活便利帳(暮らしのガイド)の発行をはじめ、外国籍住民との共生がスムーズに行われるために、施策に対応する専従スタッフが必要と思われる。

回答> 市で国際交流を担当する文化まなび課は、他に平和・文化行政、社会教育・生涯学習などの業務があり、4人の職員で担当しており、国際交流専属の職員はいない。

提言5 広報誌を活用し、在住外国籍市民との共存に対する意識を喚起すると共に、在住外国籍市民の能力を活かし、通訳ボランティアとして登録・活躍する場を醸成することが必要と思われる。

回答> 広報誌には外国籍市民との共存に関する記事は掲載していないが(平成22年度)、在住外国籍市民との共存に対する意識を喚起する場としては、小中学校で総合学習、国際交流協会の事業として国際理解を深める講演会などを実施している。今後、国際交流協会への入会案内を市広報誌に掲載する予定。外国籍市民の相談支援や、行政文書の翻訳、同邦の人同士のつながりを求められた際などに在住外国籍市民の方に協力をお願いする場合がある。また協

会では、会員による通訳・翻訳ボランティアを設けており、必要に応じて活動していただいている。

提言6 日本語の授業についていけない外国籍児童生徒に対する学習指導など早急に支援策を整備する必要がある。

回答> 市学校教育課では、日本語指導を必要とする児童生徒の在籍する市内小中学校に日本語指導非常勤職員を配置し、日本語の不自由な児童生徒の学習を支援している。(配置人数5名、対象7校20人の児童生徒：平成23年5月現在)。その他3校に(1部重複)県から日本語指導教員が派遣されている。

提言7 学校に行っていない外国籍市民の小・中学生の実数はどのくらいか。

回答> 学校に行っていない外国人の児童・生徒数は把握していない。市に登録があっても母国に帰っている場合もあるほか、外国籍市民には就学義務が無いため、実数を把握することは困難(市学校教育課聞き取り結果)。

提言8 市は外国人転入の際には日本語教室の周知、生活する上での必要なルール、マナーなどを説明するべきである。

回答> 市民課では、必要に応じてゴミ出しのルールが記載された用紙や日本語教室の案内を渡している。

提言9 在住外国籍市民のキーパーソンを育成し、彼らとの懇談会を定期的を開催し、意思の疎通を図り、生活環境・労働環境・社会保障の整備のため、互いに提案し行政への参加の機会を開いていくことが必要である。

回答> 在住外国籍市民のキーパーソンの育成は現時点では行っていないが、必要に応じて諸場面で外国籍の方に協力をお願いしている。

確認1 「埼玉県多文化推進プラン」の東松山市における推進状況について先輩方が平成20年に調査したが、その後の進捗について確認した主な項目。

回答> 医療・保健・福祉における多言語対応について

・保健センターにおいて

①予防接種予診票

(英語・スペイン語・ポルトガル語・
タガログ語・中国語・韓国語・タイ語対応)

②乳幼児検診・歯科検診問診票

(英語・スペイン語・ポルトガル語対応)

・市民病院において

①簡易問診票(英語・韓国語・中国語・

ポルトガル語・スペイン語対応)



(4) 外国籍市民の声（きらめき出前講座）

グループ全員の願いとして外国籍市民との交流を図りながら何か困りごとのお手伝いができないかと考え、手始めに出前講座で外国人から直接話を伺う事にした。

日 時：平成23年6月1日（水） 13：30～15：00

場 所：きらめき市民大学 研修室

出席者：きらめき市民大学国際・文化学部Cグループ全員及び市担当者

外国人ゲスト：4人（尚、趣旨内容からゲスト名は記しておりません）

ゲストAさん（ブラジル出身）

日本に来て2年目、肩が痛く眠れなくなった時が一番困った。日本人の医者はポルトガル語が通じない。病名を比較した辞典もあるがうまくいかない。ある日本人からマッサージが良いのではないかと言われた。一時痛みはなくなったがその後再発し、今後も心配である。

日本に来て9年目になるが今でも言葉が問題である。特に漢字を覚える良い方法はないか。

ゲストBさん（中国出身）

来日16年、一番迷ったのは子供の教育方法です。特に中国は教育熱心な国なので、日本ではこんなに遊んでいても良いのかと思うこともあった。子供との会話は日本語の方が通じる。

魚の種類が多くどのように料理で使ったら良いのかも分からないことがある。

ゲストCさん（マレーシア出身）

マレーシアは台風・地震等大きな自然災害がないので東日本大震災の時は怖かった。そのほか日本では春は花粉、夏は蒸し暑く冬は寒いなど四季の心配もある。日本に来て25年と長いため、今では日本の生活にはだいぶ慣れ食べ物については季節に合わせて準備できるようになり、近所付き合いも出来るようになって問題は少なくなった。

ゲストDさん（ドミニカ出身）

日本に来て一番大変なのは病院にかかる時と学校からのプリント類の内容がわからないこと。まわりにはドミニカ人はいないがスペイン語を話す人達もいるので、その人達とは話をしている。今でも日本人及び特に学校とのコミュニケーションが大変である。

全体での感想

- ・思っていたほど出身国人同志の会がない。
- ・来日年数が長くても言葉（日本語）の問題が一番である。
- ・我々グループ員が出来そうな簡単な支援として、パソコンの扱い方の援助、家庭の電気等の不具合対応、その他よろず相談等々を提案した。

3. 先進的な国際交流センターの視察

(1) NPO法人「ふじみの国際交流センター」の状況

目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの近隣で先進的な国際交流を実践されている「NPO法人ふじみの国際交流センター」を訪問し、具体的な活動内容やこの組織をつくった経緯、苦労話などを伺う。 ・東松山市においても同様の活動を行うための考え方や実践方法についてのヒントを探る。
日 時	平成23年7月19日（火） 10:00am～11:45am
場 所	ふじみ野市 うれし野まちづくり会館2F 「ふじみの国際交流センター」
センター開設の経緯	<ol style="list-style-type: none"> 1. このセンターは「日本語を教えながら、日本の文化を外国人に知ってもらい、互いに交流を図ることを目的としたサークル」朝霞インターナショナルソサエティ（AIS）を起源としている。 2. 日本語クラスを推進して行く中で「24時間・365日、外国人と日本人が交流し触れ合える場所」の必要性を感じた。 問題を抱えた外国人達が自由に集え、いざというときの駆け込み寺となる拠点を求めて同センターを開設。
事業内容	<p>15年の活動実績を持ち様々な問題を解決して行く中で経験に基づいた多岐にわたる支援活動が充実している。悩み事相談から自立支援、就業支援、日本語教育支援、自治体との協業など。これらの実績に基づき、行政からの信頼も厚く、ふじみ野市、富士見市、三芳町などからの業務委託も受けている。</p> <p>1. 外国人の人権擁護と自立支援</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 悩み事・生活相談：近隣地域在住の外国人の医療、家族、教育問題や役所等への同行など多岐にわたる相談に昼夜を問わず、また土・日・時間外も対応。外国人のスタッフも居て5カ国語に対応している。 ② シェルター：DV(ドメスティック・バイオレンス)を受けた外国人女性や子供を一時的に避難・保護する仮宿泊設備を持ち、駆け込み寺を実践。加えて住む所を探したり、裁判所・入管への同行、就労支援なども行い自立の支援を行う。 ③ 多言語による情報発信：生活情報誌(1000部、毎月発行)や富士見市・ふじみ野市より依頼されて6カ国語に翻訳された「生活ガイド」を発行している。 また、家庭からでるごみの処理、健康カレンダーなどの発行を通じて、外国人への情報発信を行っている。



<p>事業内容</p>	<p>④ その他、日本語指導（国際子どもクラブ、親子日本語教室など）や教育活動、防災訓練などを行う。</p> <p>2. 国際理解と国際交流（共生のまちづくり）</p> <p>① 教育活動：国際理解講座は地域の中学校に外国籍スタッフが出向き母国の風土、歴史、文化の紹介を行う。また中・高校生にボランティアの体験をさせたり、大学からの依頼でインターンを受け入れたりしている。更には、国際青少年育成振興財団との共催で地域の子供達の国際性を向上させ、健全な育成を図る「国際わいわいクラブ」を実施している。</p> <p>② 国際交流：ふじみ野市、富士見市、三芳町と協働にて国際交流イベント、料理教室などの交流イベント開催。</p> <p>③ 語学講座：中国語教室、韓国語教室、英語教室、パソコン教室</p> <p>3. 埼玉県協働提案事業</p> <p>① 携帯電話通訳事業：埼玉県県民生活部国際課との協働で携帯電話での電話会議システムを構築。日本語がわからない外国人が行政窓口を訪れた際、携帯電話を通じて契約した同国語を話す外国人が通訳を行うシステムを構築した。東松山市もこの恩恵に浴している。</p> <p>② 快適生活情報クリップ：7カ国語に翻訳された生活情報紙発行。</p>
<p>感想</p>	<p>1. 朝霞市にあった英語教室の生徒と先生のやり取りから発足した組織が、15年の歴史を経て、素晴らしい活動を行っているNPO法人として展開されている話を伺い感動した。</p> <p>2. この実績の上に、ふじみ野市、富士見市、三芳町の3つの行政が信頼を寄せ、外国人相談窓口として業務委託を行っている他、各種事業を行政と協働している事に驚かされた。また、「さいたまNGOネット」など他の機関との交流・情報交換も盛んである。</p> <p>3. 更に携帯電話による通訳事業を埼玉県と協働にて実施するなど、上記2市1町に留まらない活動の広がりを見せている。</p> <p>4. 常に外国人と交流し、日本語教室や食事会などを通じて問題把握、抽出に努めるなど基本を外さない姿勢が非常に参考になった。</p> <p>5. 「相談案件はすべて同行して支援する」、「政府がしっかりする迄、一般市民がボランティアでやるしかない」という同センター石井理事長さんのお話が頼もしくもあり、自信に満ちていたことが印象的であった。</p>



4. 支援活動への取り組み

(1) 交流活動「ホテル見物と日本文化に触れる会」

目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本文化を伝えると共にゲームや懇談、ホテル見物などを通して外国籍市民との交流を楽しむ。 ・ 交流会を通して外国籍市民とのコミュニケーションを図り、日常生活での支援活動へつなげる。
日 時	平成23年6月26日(日) 4:30pm~9:00pm
場 所	神戸公会堂
参加者	<p>来客：29名</p> <p>国別：中国8名、インドネシア7名、カンボジア3名、サウジアラビア2名、カナダ1名、韓国1名、マレーシア1名、日本6名</p> <p>性別：男性～14名、女性～15名</p> <p>所属別：日本語教室17名、大東文化大学7名、東京電機大学5名 きらめき市民大学 国際・文化学部学生18名、及び、須藤常務理事</p>
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 浴衣の着用～学生の持ち寄った浴衣を来客者にも着てもらおう 2. パーティー <ol style="list-style-type: none"> 1) 主催者挨拶 2) 自己紹介じゃんけんゲーム：自分の名前と国籍を紹介後、じゃんけんをする。勝者が相手の名刺(各自8枚所有)を貰い獲得数の多い方から順位を決める 3) ことば遊び：動物の鳴き声(犬、猫、牛、蛙等)を各国の表現で披露する 4) 体験コーナー：詩吟の鑑賞、琴の鑑賞と体験(英語で概略説明) 5) 全員合唱：「さくらさくら」、「上を向いて歩こう」 6) 会食：グループ毎に懇談しながら夕食を楽しむ(6グループ) 7) ホテルの説明(英語にて実施) 8) 記念写真 3. 浴衣から自分の服への着替え 4. ホテル観賞ツアー <ol style="list-style-type: none"> 1) 公会堂からホテル生息地へ 2) ホテル生息地入口で感想発表(2名から)後日、アンケート回収



<p>行事の 詳細及び 感想</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前々日まで参加申込み者が低調で心配したが関係者の努力もあり、当日は雨模様にも拘わらず、予想を上回る参加者となった。又、参加国も7ヶ国を数え、大盛況となった。出産間近の妊婦さんも参加、更に須藤常務理事も飛び入り参加頂いた。 2. 目的の一つであった浴衣の体験では女性用は十分用意できたものの男性用はやや不足したが、どの国の方が着ても中々お似合いで皆さん、初体験に大喜びだった。 3. 自己紹介じゃんけんゲームで一気に盛り上がり、和やかなムードになった。又、意外にもほぼ全員がじゃんけんのルールは知っていた。一番名刺を獲得した方は15枚で10枚以上の方もたくさんいた。上位獲得者にはメンバー手作りの賞品や日本の扇子、団扇等をプレゼントした。ここでの結果で6グループに分け、テーブル毎の親睦を図った。 4. ことば遊びでは各国で馴染みのある動物の鳴き声を紹介し合った。犬は日本、中国、韓国では「ワンワン」だが、インドネシアでは「ゴクゴク」、マレーシアでは「ゴンゴン」、カナダでは「ワッフワッフ」と聞こえる様で吃驚した。又、猫も日本、中国、韓国では「ニャオニャオ」だがインドネシア、マレーシア、カンボジア、カナダでは「ミャオ」、サウジアラビアでは何と「モア」と聞こえる様である。この他に牛、蛙を披露してもらった。最後にはほんのお遊びでエイリアンを示し、どんな声を予想するか伺った。 5. 体験コーナーではメンバーによる詩吟と琴の演奏を楽しんだ。詩吟では“富士山”と琴の伴奏が入った“黒田節”を披露した。又、琴は代表的な作品である“六段”を紹介した。続いて琴に触り、何人かに体験して頂いたが皆さん大いに興味があり、黒山の人だかりとなった。尚、演奏に先立ち、英語で簡単にそれぞれ紹介した。 6. 全員合唱では琴の伴奏で「さくらさくら」を、又、ギター伴奏で「上を向いて歩こう」を歌った。やはりどちらも外国人にとって日本の代表的な歌の様でほぼ全員の方が口を大きく開けて歌っており、大合唱となった。 7. 会食では4種類の弁当を用意したが、豚肉のダメな方（イスラム圏）が大勢いた。中には敬虔なイスラム教信者で豚肉以外の料理でも“油に何を使っているか？”と気にする方もいた。又、会食時には各グループ内で話が弾み、お互いに写真を撮りあったりして交流を深めた。 8. 会食後、英語でホテルについて簡単に説明。そして全員で記念写
----------------------------	---

行事の
詳細及び
感想

真を撮った後、浴衣着からご自分の服に着替えていよいよ本日のメインイベント“ホタル見物”に出発した。やや霧雨が降っており、一週間前の下見では一匹も見られなかったのが心配したが、生息地入口に着くやいなやそここに光の演舞が繰り広げられており、安堵すると共に感激した。

9. 生息地を奥に入っていくと川の縁から、川向うの藪の中からと沢山のホタルが飛び交っており、日本人を含め大騒ぎとなった。外国人参加者は殆どの方が初めて見るようで、中には手のひらに乗せじっくり観察する方あり、中々動かずじっと見つめている方ありとそれぞれの思いを巡らしていた。散策地全体で万遍なく見られ、恐らく何百匹という単位のホタルが歓迎してくれたのではなかろうか。
10. ホタル見物後、生息地入口付近で外国人参加者お二人から簡単に感想をお聞きした。時間の関係もあり、その他の感想は後日のアンケート回答に期待し解散した。初めてのホタルに感動した方が多く、是非、又来年も来たいという声が多く聞かれた。
11. 今回の参加者は全員が留学生、又は日本語教室の生徒であった事もあり、日本語を意思の疎通に殆んど問題ない程度に話せたので、大いに親睦を深める事が出来た。ただ念の為、「日本文化」の紹介、「ホタルについて」は英語でも説明した。
12. アンケート結果は次ページの通りである。



ホテル見物と日本文化に触れる会 “アンケート結果”

*アンケートの回収 ; 8 件 (配布数 : 23 件)

No.	質問事項	選択内容又はコメント	回答数
1	一番楽しかった事	①自己紹介ジャンケンゲーム	2
		②ことば遊び (動物の鳴き声)	1
		③詩吟・お琴の鑑賞	1
		④ホテル見物 *複数回答含む	6
2	日本人とこの様な交流をした事は?	①ある	7
		②ない	1
3	今後、どんな交流会があったら参加したい?	・たいくつしないイベント～花火や盆踊り大会	1
		・浴衣やゲーム	1
		・皆での食事	1
		・日本の遊び	1
		・日本の祭り	1
		・今回の様な交流会	3
4	日本で生活していて困った事は?	・家賃が高い～一部屋で何人かの寮生活	1
		・一人での生活、学習はちょっと寂しい	1
		・日本語がもっと上手になりたい。 駅の名前で困った	4
		・日・カンボジア電子辞書欲しい	1
5	あなたが住んでいる町の日本人に希望する事は?	・公的に来る日本語の書類が難しい～ひらがなをふって!	1
		・1年に少なくとも3回、国際パーティーを開いたら良い	1
		・交流会を多く～日本人の考え方や文化に触れる機会を	1
6	あなたについて	①日本に住んでいる目的 ; a) 勉強のため	6
		b) 仕事のため	2
		c) その他	1
		②日本にどのくらい住んでいますか? ; a) 1年未満	1
		b) 1年～5年	5
		c) 11年以上	2
		③あなたの年齢は? ; a) 21～40歳	6
		b) 41～60歳	2
④あなたの性別は? ; a) 男性	3		
b) 女性	5		
7	その他、感想	・楽しかった。面白かった。ありがとうございました。	5
		・良かった。ホテルもご飯も琴も詩吟も。別のゲームもやりたい。	1
		・楽しかった。ホテルの歌が知りたい。又、参加したい。	1
		・友達が出来て嬉しい。自分の国のホテルと違った。	
		又、参加したい。	1

(2) 支援活動内容のリストアップ

私達は外国籍市民の方々に、日常生活の中で簡単にできる支援活動の内容を自分達の特技や趣味の中からリストアップした。

日常生活支援（ソフト面）	英語・中国語の簡単な通訳・翻訳、 行政手続き支援、病院付き添い（英語で）
（ハード面）	電気器具・配線の修理、機械類修理
学習支援	日本語指導、パソコン指導、小・中学生学習支援
日本文化体験	琴、詩吟、書道、ちぎり絵
趣味体験（屋外）	盆栽、園芸、ローズガーデン
（屋内）	クラシック音楽鑑賞
その他	日本の宗教解説、インテリアデザイン相談

(3) 支援内容の周知活動

- ① 文化まなび課に支援内容の周知方法を相談（8月11日）
 - ・支援内容を国際交流協会ニュースに掲載すると共に、交流協会のスタッフにも周知して下さるとの協力が得られた。
 - ・他の周知方法も検討した方がよいのではないかとアドバイスを受ける。
- ② きらめき市民大学ホームページに掲載依頼（9月7日）
 - ・きらめき市民大学ボランティアクラブに加入し、その中で活動してはどうかとアドバイスを受ける。
- ③ 国際交流協会外国人相談支援スタッフ会議に参加（9月9日）
 - ・外国人相談支援部会の中で、私達の支援活動ができないか相談する。
 - ・外国人相談支援部会では深刻な問題を取り扱っており、現状では我々が意図する簡単な支援活動をする部会ではないということがわかった。
- ④ きらめき市民大学ボランティアクラブ役員会に参加（9月20日）
 - ・ボランティアクラブの中で、私達の支援活動ができないか相談する。
 - ・ボランティアクラブでは、ボランティアの対象が個人ではなく公共施設や団体であること、また規約の問題等もあり、私達がボランティアクラブの中で活動することは現状では難しいという返事を受けた。
- ⑤ 大東文化大学国際交流センター訪問（10月6日）
 - ・留学生に、私達の支援活動ができないか相談する。
 - ・今後、検討したいとの返事をいただく。



（ローズガーデン）

⑥ 社会福祉協議会ボランティア団体に登録（10月28日）

- ・グループ名を「きらめき外国人支援ボランティア」（“Kirameki Foreigners Support”）という名称で登録。

⑦ ツイッターでの発信（11月1日）

- ・「きらめき外国人支援ボランティア」専用のツイッターを開設。
- ・「私たちは東松山市にお住まいの外国人の皆様を支援するボランティアグループです。毎日の生活でお困りの事がありましたらご相談ください。例えば英語や中国語の簡単な通訳、翻訳。行政手続きのお手伝いや病院への付き添い、電気器具・配線の修理、日本語やパソコンの指導などなど無料でお手伝いします。」という内容を日本語および英語で発信した。



⑧ チラシの作成（11月9日）

私たちのボランティア活動を広く外国籍市民の皆さんに周知するため、チラシを作成し市内各所に配布する事にした。

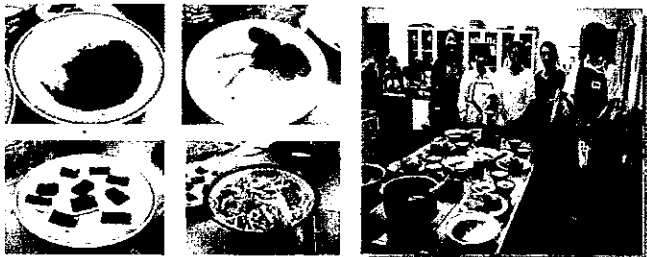
⑨ チラシの配布（11月24日）

まず手始めに、大東文化大学、東京電機大学の留学生の皆さん達に配布する事から開始した。次に国際交流協会主催の日本語教室に参加する生徒さん達にも配布し、連絡を待つ事にした。



5. 国際交流協会事業への参加（自主活動）

(1) - ① 食文化交流会－ブラジル料理

日 程	平成23年6月18日(土)
(行事の詳細)	
ブラジルの家庭料理	
・フィジョン豆 ・ヒゾレス	
・ソーセージ ・ビーツのサラダ	
・ガアバとチーズ	
講師：日本在住の日系2世	
(感想等)	
1. ブラジルの家庭料理はどんな味かなと思い、ワクワクしながら参加した。	
2. 情熱の国のイメージ通り、大きなフランクフルトソーセージをフライパンでギタギタ焼いたものとか、餃子をフライにしたり、チーズを羊羹みたいに甘いものに挟んだり、ご飯に甘いフィジョン豆をカレーの様にかけて食べたり、ボリュームたっぷりのお料理だった。	
3. ブラジルの人たちは生命力が強く、たくましく、陽気で明るく、そのイメージにぴったりのお料理だった。	
4. ブラジルのお料理美味しかったですよ！皆さんも是非チャレンジしてみませんか？このお料理を通してブラジルがとても身近に感じた。ピケ ピケ ピケ！	

(1) - ② 食文化交流会－ハワイ料理

日 程	平成23年9月10日(土)
(行事の詳細)	ハワイ料理の実技講習 講師：食文化交流協会スタッフ
(感想等)	
1. 実技として、次の料理の作り方を教えていただいた。	
(1) シュレドッド ポーク (Ka Lu A P o r k)	
・豚モモ肉 (1 k g 6人分) を180℃のオーブンで1時間半焼く。	
(2) ココナツプディング (H a u P i a)	
・ココナツミルクを粉ゼラチンで固めて冷やしたデザート。	
(3) スイートポテト&ココナツミルク (U, a L a)	
・冷やして食べてもおいしい。	
(4) ローフィッシュ (P o K e)	
・マグロ・玉ネギ・海藻をあえて、調味料で味を調える。	
(5) ロミロミサーモン (L o m i L o m i S a l m o n)	
・ロミロミとは手で混ぜるという意味。	
どの料理も調理後冷やして食べるという特徴があった。	

(2) イングリッシュミーティング

日 程	平成23年 7月9日 (土) 13:30~15:00 平成23年10月1日 (土) 13:30~16:00
(行事の詳細)	市内外の小中学校のALT (アシスタントランゲージティーチャー) と少人数グループに分かれ、特別テーマを決めず自由闊達に英語で会話を楽しみ、ネイティブスピーカーが我々の会話をサポートしてくれた。
(感想等)	初めての行事参加で事前にどんなものを用意して行けば良いのか分からず困った。1回目は時間も短かったこと、グループ替えも2回だったことで話題も少ない印象だった。2回目はスタッフの方も参加者の意見等も考慮してくれたと思われ、話す時間をたっぷりとっていただき大変満足した。ただ参加者減、固定化しているようで今後の対応策も必要だ。又、コーディネーター、参加者とも事前に質問又は話題を持参した人が少ないようだったのは残念だった。私としてはスタッフがある程度レベルに合わせテーマを用意しておき参加者が選ぶ方法も良いのではないかと思う。実はコーディネーターの一人が私の家の前をよく通り、顔なじみとなれたことが研究課題にも沿った成果だった。



(3) 語学講座 (中国語)

日 程	平成23年10月11日 (火) ~12月6日 (火)迄、計8回
(行事の詳細)	本年度の語学講座は英語、中国語、イタリア語 (初級又は入門) が開催された。開催場所は都合により従来の総合会館から外部へと移動した。
(感想等)	中国語の会場は午後5時まで営業していたレストランを借り切って実施された為、周囲への心配はなく思い切って発声できた。 講師の先生は北京外国語大学院生で、大東文化大学に留学中の沈陽生まれの梁(りゅう)さんだった。日本語は大変上手であり我々の途中の質問にも的確に対応してくれた。授業は中国語が全く初めての方を対象としていたが殆どの方がすでに勉強しているか、中国人と仕事等での関係を持っている方だったので進度は最初の日から少し早く進行した。我々メンバーの中にはスタッフを兼ねての参加者もあり、授業の内容はほとんど理解できた様である。最後まで講座に参加して、外国人との交流の機会を少しでも増やしたいとの事であった。



(4) スリーデーマーチボランティア

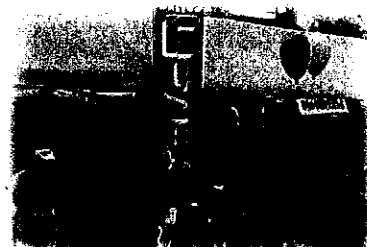
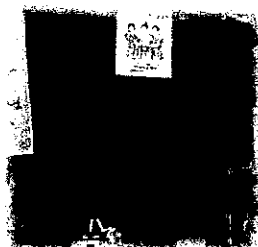
日 程 平成23年11月4日(金)～6日(日)

(行事の詳細) 東松山市の大きな年中行事の一つであるスリーデーマーチに国際交流協会を通じて以下のボランティア活動に参加した。

(感想等)

1. コーヒーショップボランティア

スリーデーマーチ参加者の中で、希望の方にコーヒー豆の粉をフィルターでドリップした本格コーヒーを1杯100円で飲んで頂いた。インスタントコーヒーとは違い、「香りも良く美味しかった」との評判をいただき3日間で1,262杯の販売が出来た。



2. 通訳ボランティア

今年度は東日本大震災、特に原発放射能問題の影響が大きく、海外からの参加者が例年に比べて大変少なかった。話をしたのはオランダ、ベルギー、スイス等の方々に、殆どの方が東松山へ何度も来られたとの事。最近の日本の状況等を話した。一方、市内の中学生の英語の勉強は盛んになっており外国人への質問を用意して参加してくる生徒が多く見られた。メンバーが北京から来た外国人に扮して彼らに話しかけると最初は戸惑っていたが、慣れてくるとどんどん質問してくれた。






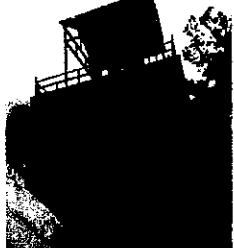
3. お楽しみウォーキング

スリーデーマーチ2日目森林公園コース(10km)を歩く。中国人ご夫妻とスタッフで15名参加。森林公園の芝生広場で昼食をとりながら交流を深める。

- ・自然の中を歩くとみんな打ち解けて話が弾み、楽しく交流が出来た。
- ・中国人のご夫妻から中国の事、中国語の事などいろいろお話が聞けて、話が盛り上がり、中国語講座を開いていただけることにまで発展したのはとてもうれしかった。
- ・解散後、中央会場広場で他の外国人ウォーカーと交流が出来て面白かった。
- ・いろいろな場面で小・中学生が大会運営や外国人との交流、東北大震災復興などのボランティアで活躍しているのには感動した。



(5) バスツアー

日 程	平成23年11月19日(土)		
(行事の詳細) 市役所～長野県の諏訪大社上本宮～諏訪湖時の科学館～昼食～諏訪大社下社秋宮・春宮～万治の石仏を見学して帰路へ			
(感想等) あいにくの雨の中のバスツアーだったが、オーストラリア、ドイツ、アメリカ、中国等の方々と楽しく日本文化に触れる事が出来た。諏訪大社は諏訪湖を挟んで二社四宮が鎮座する我が国最古の神社の一つで、七年に一度の御柱祭が有名だ。下社秋宮では鳥居をくぐって、まず目に付く正面の大きな木は御神木の一つで、「根入りの杉」と呼ばれる樹齢800年、高さ35mの大木に外国人の皆さんも大いに驚いていた。万治の石仏は下社春宮の近くの田んぼの中に、半球状の自然石に頭がのったユニークな石仏で外国人の皆さんと石仏の周りを3回まわり健康を祈った。時の科学館儀象堂では中庭にある高さ12mの水駆動式時計(中国・北宋時代の大型天文時計・水運儀象台を復元したもの)が皆を感動させた。			
			

6. おわりに

私達は、「市内在住外国籍市民への支援活動をめざして」というテーマで研究を進めてきた。まず、市内在住外国籍市民の現状を把握し、直接話を伺い、先進的な国際交流センターを視察するなどの調査活動から始め、支援活動へとつなげていった。

支援活動では交流活動を実践し、その次に、私達ができる簡単な支援内容をリストアップし、その内容を周知するために社会福祉協議会にボランティア団体として登録したり、ツイッターで発信したりなどの周知活動を行なった。振り返ってみるとテーマに沿った研究活動が進められ、その成果を上げることができたと自負している。

ただ、我々の支援活動の実践はこれから始まろうとしている段階である。卒業後もボランティア団体として息の長い支援活動を続けていこうと全員が張り切っている。そして私達の願いは、ささやかな支援活動を通して外国籍市民の方々に、日本人の心の温かさ、日本文化の良さを実感していただき、同じ市民として共に生きる社会の実現の一助になればと願っているところである。

最後になりましたが、ご指導ご協力をいただきました東松山市文化まなび課山口副主幹、大嶋様、東松山市国際交流協会日本語教室高橋リーダーはじめスタッフの皆様、NPO法人「ふじみの国際交流センター」石井理事長、大東文化大学国際交流センター井口主査、東京電機大学国際センター湯谷様、神戸区長小川様等お世話になった皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。